

Kビジョン放送番組審議会（2018年3月14日）

放送番組審議会（第20期第2回会合）では、『タウンニュース』、『Kビジョンスペシャル〜くだまつ防災フェスタ2017』を合評しました。

<合評番組>

■**タウンニュース（20分）**

2018年1月19日(金)放送

月～金曜日18時を初回放送とするニュース番組。この日の放送内容は、特集「ホビホビ～光市室積木遣り太鼓教室」、ニュースは、映画「ただいま」下松市内で撮影開始など計6本です。

「ホビホビ」は、Kビジョン放送エリア内各地の公民館で開かれている趣味の講座・サークルを取材、放送するコーナーです。リポーターが教室にうかがい、講師や参加者へのインタビューや、講座内容の体験を通して、講座についてわかりやすく紹介しています。今回は、瀬来未央リポーターが光市の伝統芸能「室積木遣り太鼓」の子ども向け教室の内容について合評をいただきました。

■**Kビジョンスペシャル〜くだまつ防災フェスタ2017（56分）**

2017年11月6日(月)～12日(日)放送

Kビジョンスペシャルは通常、放送エリア内で開催される演奏会や発表会を中心に収録、放送している番組。今回は下松市主催の防災イベント「くだまつ防災フェスタ」（2017年10月28日開催）を収録。当日は会場に複数のカメラを設置して、生放送と同様のシステムで収録し、一部を編集し、後日放送しました。

<合評内容>

■タウンニュース

- ・番組全体では、地域に密着したフットワークの軽い取材が行われていることを高く評価している。

【ホビホビ】

- ・番組は教室内だけの映像になっているが、参加者の募集を呼びかけているので、開催場所の外観の映像が流れると希望者にも分かりやすい。
- ・教室内の映像だけで紹介していたが、説明に出てきた早長八幡宮秋祭りでの演奏の映像が入ると、雰囲気がかみやすい。
- ・リポーターの元気の良さが番組から伝わってきたが、インタビューでは(子どもに)答えてほしいコメントを先走り、誘導して聞いているように見えるのが気になる。
いるように聞いているのがって明るい表情や、講座の指導者の参加者募集を紹介する仕掛けもよくできていると感じた。
- ・太鼓の練習から映像を始めるのではなく、会場に集まってくる様子や、準備、休憩時間などの映像も交えると、教室の楽しい様子が一層伝わってくるのではないかな。
- ・リポーターによる体験は、視聴者に興味をひきつける役割を担っていて、視聴者にも受け入れやすく感じる。

等のご意見をいただきました。

■Kビジョンスペシャル〜くだまつ防災フェスタ 2017

- ・参加者のインタビューで、相手がどんな団体の人たちかわかりにくい。
- ・非常食の紹介コーナーは、今回は雨天のため試食などができなかったが、どんな味なのかは主婦として気になるので、試食した感想や味についての紹介がほしかった。
- ・防災グッズの紹介ではどの店で販売しているのかだけでなく、場所や業種も説明が入ると知らない人には理解しやすい。
- ・キャスターと市長との掛け合いもうまく、市長の防災に対する想いが伝わってきた。
- ・リハーサルもできない中で動きを把握しながら、生中継の想定で収録を進めていく緊張感が感じられた。Kビジョンにとっても番組づくりの上でよいチャレンジになったと思う。運動会形式で行われるイベントを編集等でうまくまとめていて、ゆったりとした気持ちで見ることができて、見やすかった。
- ・キャスターが市長や消防職員とトークをしながら番組を進行するようすが、生放送のような軽快な流れに感じた。ゲストの解説も分かりやすかった。
- ・リポーターの一生懸命さは伝わってくるのだが、今回のゆるい雰囲気の番組には少しテンションが高いと感じる。質問する相手によって気持ちの切り替えができるようになると本人も更に良くなると思うし、Kビジョンにとっても戦力になると思う。

- ・番組の中で取り上げなかった競技のフォローなどが紹介の方法は工夫の余地があると感じた。
 - ・今後もさまざまな機会をとらえ、防災に関する取り組みや動きを取材してほしい。Kビジョンの長所は、継続して取材できる機会に恵まれていることにあると思うので、単発の取材に終わることなく、取り組んでほしい。
- 等のご意見をいただきました。

出席者は、徳永豊委員長、なかはらかぜ、西岡雅宵、金子功一、畑八郎の各委員、社側から杉田昌士代表取締役社長、矢田民也専務取締役、ほか放送制作部員4名でした。